

contents

シルクロードと東アジアの仏教美術 —遙かなる時空をこえて—	[2~3]
福井県立美術館広報大使	[4]
ふくいキッズミュージアム	[4]
所蔵品によるテーマ展	[4]
イベント報告	[5]
APECエネルギー大臣会合記念 館蔵名品展	[6]
福井県立美術館館蔵品紹介	[6]
〈コラム〉フィギュアと現代アート	[7]
【福井県立美術館もの知り事典⑤】岡島コレクション	[8]
お知らせ・貸館情報	[8]
福井県立美術館 来春の企画展案内	[8]

表紙：「釈迦如来立像」 ガンダーラ 2~3世紀



シルクロードと 東アジアの 仏教美術

—はるかなる時空をこえて—

1. 如来坐像 1 軀

塑像彩色 高53.0cm
ガンダーラ(ハッダ) 4世紀

ガンダーラのハッダ地方独特のストウッコといわれる塑像で、ヘレニズム様式の影響を受けたガンダーラ彫刻のなかでもひととき目立つ作品です。塑像独特のやわらかな肌合いを生かした気品あふれる造形をしています。



平成22年10月9日(土)～11月3日(水・祝)

※休館日は10月25日(月)

主催・会場：福井県立美術館 監修：田邊三郎助氏(町田市立博物館長)

協力：ロンドンギャラリー

開館時間：午前9時～午後5時(毎週金曜日は午後8時まで開館)

※入館はいずれも閉館30分前まで

料金：一般800円、大高生500円、中小生300円(30名以上の団体は2割引)



2. 菩薩半跏像 1 軀

黄華石 高48.2cm
中国・北周時代(6世紀)

椅子に半跏するこの菩薩像は、やや黄味がかかった黄華石という貴重な石材を使い、細部まで丁寧に彫刻されています。瞑想するかのような穏やかな表情で、半跏思惟像の白眉としてよく知られています。



3. 如来立像 1 軀

銅造鍍金 高18.3cm
朝鮮・統一新羅時代(7～8世紀)

大きめの頭部に目鼻立ちをはっきりさせ、ゆったりとした衣文の太造りの像からは、高さ20cm未満とは思えないほどのスケールの大きさが感じられます。当初の鍍金や別造りの光背も今に残る点が貴重で、愛らしさも当時のままです。



4. 不動明王立像 1 軀

木造彩色 高80.5cm
日本・平安時代(12世紀)

右手に剣、左手に絹索(繩)を持つポピュラーな姿の不動明王の像です。バランスのとれたスタイルと穏やかな彫りには、平安時代末期の特徴がよく表れています。衣の部分の色彩や文様も繊細で美しく、造立当初の趣を十分残しています。もとは和歌山県の高野山に伝来していました。



5. 蔵王権現立像 1軀

銅造鍍金 高25.5cm
日本・平安時代(12世紀)

蔵王権現は神仏習合の中で生まれた金峯山の神で、平安時代以降広く信仰され、その姿はいろいろな形で造形化されました。本像は銅板を打出して造り鍍金を施したもので、本来は懸仏の一部だったと考えられます。



6. 紺紙金字法華経(平基親願経) 1巻

紺紙金字 縦26.0cm 日本・治承4年(1180)

紺色の紙に金泥で経文を書写した「法華経」8巻のうちの1巻で、鎌倉時代の初期に「官職秘抄」を著した平基親の発願により制作されました。紺地に金色の文字が光り輝く美しいお経で、胡蝶と迦陵頻の舞を描いた見返しも当初のままです。

紀元前5世紀にインドの釈迦により開かれた仏教は、長い時間をかけてアジア全土に広まり、その流れの一つは中央アジアからシルクロードを通じ、中国、朝鮮を経て日本へも伝わりました。そして、その伝播の過程において、各時代・地域独自の思想や文化を取り込みながら大きく花開き、その篤い信仰は仏像に代表される多様で質的にも優れた造形作品を数多く生み出してきました。

本展は、ある個人コレクターのご協力により、ガンダーラをはじめとするシルクロードの地域と、中国、朝鮮、日本といった東アジア地域の名品約200点を展示・紹介するものです。本展を通して、各地域の民族が守り伝えてきたみ仏たちへの豊かな信仰と美、さらにはその背景にある歴史と文化を探ります。

■関連企画

〔講演会〕

○10月24日(日) 14:00～ 於講堂 ※参加無料
講師 田邊 三郎助氏(本展監修者/町田市立博物館長)
演題 「仏像の東伝」

○10月31日(日) 14:00～ 於講堂 ※参加無料
講師 田島 充氏(ロンドンギャラリー社長)
演題 「私と骨董」

〔担当学芸員によるギャラリートーク〕

○10月11日(月・祝)、11月3日(水・祝) 14:00～ ※本展チケットが必要

■同時開催

所蔵品によるテーマ展 「郷土作家名作選 ～近・現代洋画から彫刻まで～」
※本展チケットで鑑賞可



7. 金胎仏画帖 賢護菩薩 1幅

紙本着色 縦25.1cm 横13.8cm
日本・平安時代(12世紀)

もと金剛界曼荼羅の諸尊を描いた冊子の中の1頁で、仏の姿を中心に左右に尊号や密号、種字などを記しています。流麗な線描と色鮮やかな色彩は、平安時代に制作された彩色本図像集を代表する作例として知られています。



8. 華蔓 2枚

木製彩色 高34.2cm 幅35.0cm
日本・鎌倉時代(13～14世紀)

華蔓は仏堂の梁や長押に掛ける荘厳具で、元来は古代インドで生花を糸で綴った装身具が始まりといわれています。木製の板に蓮華唐草を透かし彫りしたこの華蔓は、鎌倉時代の木製華蔓の中でも優品の一つとされています。

福井県立美術館広報大使



県立美術館では、今年度から、当館で博物館実習を受けた大学生に広報大使をお願いすることにしました。8月13日の閉講式には、一週間の実習を修了した8名の皆さんに、齊藤館長から一人ずつ委嘱状が手渡されました。

大使に委嘱された皆さん方には各大学で来年3月まで、当館の知名度アップに一役買っていただきます。



広報大使に委嘱された8名の皆さん

ふくいキッズミュージアム



8月21日(土)と22日(日)の両日、来年度からの本格実施に先立ち、「ふくいキッズミュージアム」のトライアルが開かれました。

21日の『さわって探そう！タッチーズ探検隊』のコースでは、午前中福井大学の森の中で大学生のリーダーが出題する問題の答を五感を使いながら探し、午後からは当美術館で展覧会を鑑賞し、これらの体験をもとに探検記録を作成しました。(写真左上)

22日の『なりきりアート ～君が主役！！～』では、当美術館の館藏品の中から自分が好きな人物になりきって写真を撮ったあと、彩色を施し、最後に額に入れて完成です。(写真左下)

どちらのコースも、参加した子供たちは、初めての経験にとまどいながらも、楽しく充実した一日を過ごしました。



所蔵品によるテーマ展

10/9(土)～11/3(水)
「郷土作家名作選
～近・現代洋画から彫刻まで～」



旭亮弘「作品」

12/9(木)～1/10(月) ※1月3日(月)～1月10日(月)「新春を寿ぐ」併催
「寄贈作品展」



狩野芳彦
「伏龍羅漢図」

1/15(土)～2/20(日)
「工芸之美
～陶芸、金工、漆工の多彩な技～」



楠部彌弍「彩挺春日香炉」

「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」

《イベント報告》

7月24日(土)から8月22日(日)まで、当館で開催された「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」は、近年では最高記録となる1万2千人以上の来場者がありました。

今夏は記録的な猛暑日が続きましたが、本県初の本格的ジュエリー展ということもあってか、連日、暑さを忘れるような盛況ぶりでした。期間中、記念講演会やボランティア主催の多彩なイベントによって同展覧会に花を添えていただいたことも来場者の増加に大いにつながったようです。



■ 記念講演会 8月8日(日)

展覧会の出展作品のほぼ全てをお借りした、^{あきば}穂葉アンティークジュエリー美術館の館長、穂葉昭江氏から「アンティークジュエリーにこめられたメッセージ」というテーマでご講演をいただきました。「命をかけたコレクション」という言葉どおり、歴史的背景や技法、見所など1点1点丹念に解説する穂葉館長のお姿に、参加者は終始熱心に聞き入っていました。



■ 「もっと展覧会を楽しもう! 私たちがお手伝いします」

この合言葉のもと、ボランティアの会では、盛りだくさんな関連イベントを実施していただきました。“女王様に変身!”コーナーでは、好みのドレスとゴージャスなティアラを身につけて記念撮影ができるということで、朝早くから行列ができました。“つくれるよ!ミニ三輪車”コーナーでは、熱心に工作に取り組む親子連れの姿が大勢見られました。その他の催しも大変好評で、県立美術館に来て楽しかったという声が数多く寄せられています。会の創立15周年記念事業ということで、同展覧会に間に合わせるため、1年以上も前から準備を進めていただきましたこと、厚く感謝申し上げます。



女王様に変身中!



1万人目の入場者となる福井市の堀さん親子に齊藤館長から記念品が贈呈(8月21日午前)



講演中の穂葉昭江氏



ミニ三輪車が完成!

「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」への協力事業を終えて

福井県立美術館ボランティアの会 15周年記念事業実行委員会
実行委員長 大滝 寛



今回の「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」はここ4年間で最高の入場者となりました。

アリスの部屋でのお迎え、女王様に変身 ティアラと私の王朝風、シルバーアクセサリー創作教室、ワイヤーでミニ三輪車作り、ロビーでのミニコンサート、午後の紅茶教室を企画し、どのコーナーも連日好評で、それぞれが楽しく良い思い出づくりになったようです。

また、美術館周辺の福井市立美術館の特設コーナーや展覧会にちなんだ特製スイーツ販売などの田原町商店街の協力もいただきました。

特に親子づれでの来館者が多く、グレードの高い豪華なジュエリーの数々に感動し、観て、作って、体験して満足する、という参加型を企画実施したことが、入場者増に寄与したものと思われま。

今回のイベントが成功裡に終えられましたことは、福井県立美術館各位とボランティアの会実行委員会の皆様の一年以上に及ぶ、時間を惜しまない努力のたまものです。

福井県立美術館ボランティアの会は、この15周年記念事業の経験を生かし、20周年に向かって、今後も福井県民に「愛され親しまれる美術館」をめざして活動していきたいと思ひます。

福井市で開催のAPECエネルギー大臣会合(6月19～20日)に向けて、当美術館では英文併記のチラシを作成して、館蔵品の紹介を行いました。

日本の美

The Collection on View *Japanese Aesthetics*
in commemoration of APEC Energy Ministers' Meeting



福井県立美術館 館蔵品紹介

新道繁(1907～1981年)は、本県三国町出身の洋画家です。

1925(大正14)年に第6回帝展に初入選して以来、官展を中心に出品を続けましたが、同時に独立美術協会など当時の前衛的なグループの展覧会に出品し、独自の発表活動も行いました。初期には風景や身近な人物を描きましたが、戦後は穏健な写実を基調とした松の連作を発表し、「松の画家」と呼ばれるようになりました。

1961年には松の連作で日本芸術院賞を受賞しています。なぜ松を描くのかという雑誌社のインタビューに対して、新道は「松の亭々とした感じが好きです」と答え、続けて「要するに松をモチーフとして自分の生き方みたいなものを描こうとしている」と言っています。

パステル調で描かれた本作品も、柔らかく詩情豊かでありながら、どこか孤高の雰囲気を漂わせた、新道自身の個性をよく反映した作品であるといえるでしょう。



新道繁「松」
油彩/カンバス(80.3×100cm)

本作品は10月9日～11月3日開催の「郷土作家名作選」で展示予定です。

N HK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」のヒットにより、水木しげるブームが起きているという。水木の生地である鳥取県境港には、漫画「ゲゲゲの鬼太郎」のキャラクターをかたどった彫刻が設置されているが、ここにも多くの観光客が押し寄せているようである。

ところで皆さん方は、熱心なアニメファンの巡礼地が、この福井にあるのをご存じだろうか。JR敦賀駅から気比神宮へ向かうアーケード街「シンボルロード」には、漫画家松本零士の人気作品「銀河鉄道999(スリーナイン)」と「宇宙戦艦ヤマト」の名場面を再現したモニュメント像が28点も置かれている。ここでは、メーテルや星野鉄郎、古代進やアナライザーなど、たくさんの人気キャラクターに出会い触れるというファンの夢がかなう。(㇏)

かが足りないと同時に余分でもある。キャラクターへの過剰な思い入れは、「フィギュア」によって満たされるのではなく常に挑発され続ける。「フィギュア」とは、日本の漫画やアニメとそれを愛でる鑑賞者との特殊な関係そのものの表現なのかもしれない。日本人アーティスト村上隆は、この「フィギュア」を作品化して欧米で高い評価を得ている。

敦賀のモニュメントは、さらに複雑である。キャラクターたちは、伝統的な彫刻や銅像と同様にブロンズで鋳造されている。新たな立体表現である「フィギュア」と旧来の造形手法である「彫刻」の、いわばハーフなのである。「銀河鉄道999」や「宇宙戦艦ヤマト」の主人公たちの戦いの物語に、「フィギュア」対「彫刻」という新旧の美術の対決が透けてみえる。

敦賀の地にたたずむモニュメ(㇏)

column

コラム フィギュアと現代アート

学芸員 野田訓生

モニュメントは、1999年の敦賀港開港百周年記念事業「つるが・きらめきみなと博21」開催に合わせて設置された。「歴史ある港と鉄道、原発の立地する科学都市」という敦賀市のイメージを、「銀河鉄道999」と「宇宙戦艦ヤマト」の世界に重ねているのだという。2003年には、若狭路博の連携イベントとして、松本零士を招いたトークショー、コスプレショー、コンサートも開かれている。

近年、漫画やアニメの登場人物を立体化し着色した像は、「フィギュア」と呼ばれる新たな造形表現として注目されている。平面上のリアリティーを目指して描かれたキャラクターを、完璧に立体化することは不可能である。この矛盾が、「フィギュア」を二次元(絵)と三次元(彫刻)の奇妙な中間物として生み落とす。それらは常に未完成であり、何

ント群は、世界的な人気を誇る松本零士の作品世界への旅というだけでなく、現代アートという旅へ私達を誘っているかのように思える。



『別離』
松本零士「銀河鉄道999」より
メーテルと星野鉄郎
1999年設置
ブロンズ
敦賀市シンボルロード(本町一丁目商店街)

岡島コレクション

「福井県立美術館その知り事典」⑤

昭和32年と33年に大野市出身の岡島辰五郎氏(1880～1962)は、その貴重なコレクションと美術館の建設資金を福井県に寄贈しました。岡島美術記念館は、昭和33年8月、福井市宝永の地に開館して以来、県民に親しまれる美術館として活動してきましたが、昭和62年に老朽化のため閉館となり、氏のコレクションは県立美術館に移されました。

このコレクションは、氏がニューヨークで美術貿易商を営む間に収集した日本を中心とする東洋の金工品を主とした古



ありし日の岡島辰五郎氏

美術のコレクションです。東京美術学校(現東京芸術大学)で金工を学んだ氏の確かな見識と審美眼に基づいて収集された作品は、刀装具、喫煙具から金銅仏、漆器等と多岐にわたり、その数は現在673点にも及んでいます。



当時福井市宝永にあった岡島美術記念館

県立美術館2階の常設展示場には岡島コレクションコーナーを設け、1年を通して展示しているところですが、再来年の1月は氏の没後50周年に当たるため、記念となる展覧会を開催したいと考えております。

お知らせ

◎10月～12月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。

10月4日(月)～8日(金)、25日(月)、11月4日(木)～10日(水)、15日(月)～19日(金)、29日(月)～30日(火)、12月1日(水)～8日(水)、13日(月)、29日(水)～31日(金)

貸館情報 [年内]

- | | |
|---|------------------------------|
| 10/1～10/3 ● 第40回若越書道会展 | 12/9～12/12 ● 第60回福井県勤労者美術展 |
| 10/9～10/11 ● “草木染彩いろ展” | 12/14～12/19 ● 第23回美浜美術展 |
| 10/14～10/17 ● 第24回新彫会彫刻展 | 12/15～12/19 ● 映彩会水彩画展 |
| 10/21～10/24 ● 第44回彩美会日本画展 | 12/16～12/19 ● 全国大学・高专卒業設計展示会 |
| 10/28～10/31 ● ふくいの風景ふたり展 | 12/23～12/26 ● 第60回福井書法展 |
| 11/2～11/3 ● 尚山会水石展 | |
| 11/11～11/14 ● 第21回福井県高等学校総合文化祭
美術、書道、写真特別支援学校作品展 | |

11/20(土)～11/28(日) 第61回県総合美術展

福井県立美術館 来春の企画展案内

島田墨仙展

平成23年3月4日(金)～3月27日(日)



美術館だよりの前号、前々号でも紹介しましたが、福井出身の島田墨仙は、日本画部で初の帝国芸術院賞を受賞した歴史的人物画の第一人者です。父雪谷、兄雪湖も画家であったことから、同展では墨仙を中心とした島田一族の制作活動を徹底検証します。ご期待ください。

島田墨仙「秋夕」